

科目名	担当者名	配当	期	単位
民法特別演習Ⅱ	江森 史麻子	2必	後期	2

■講義内容■

民法のうち、2年次後期に開講される法律基本科目である。前期に引き続き、基本的な判例を用いて、その事案および裁判所の判断を理解するとともに、これに対する学説による批判を検討する。基本判例を横断的に学ぶことで1年次に学んだ民法の知識をより確かで立体的なものとするとともに、具体的な紛争において民法の適用される場面に触れ、生きた民法を実感する機会としたい。

なお、本科目は、前期の「民法特別演習Ⅰ」と連続性を有し、受講生は1年をかけて民法判例を横断的に学ぶ。後期は、債権各論（契約総論を除く）、総則、一般条項の分野の判例を取り上げる。

■シラバス■

<科目のねらい>

教科書として採用する『民法判例百選Ⅰ・Ⅱ』に従って、民法の判例を横断的に見ていく。

受講生には、予習として、該当箇所の記載を自分なりに理解するとともに、当該分野について自己の基本書にあたり、その体系的な位置づけを把握した上で問題点について復習してくることを求める。この予習の積み重ねにより、民法の知識を補強するとともに、事実関係を正確につかむ力、問題点を的確に捉える力を養って欲しい。

授業では、毎回、1つないし2つの判例を重点的に取り上げて、事実関係を十分に把握するとともに、これに対する判例の考え方について議論し、多角的に考える力の養成を目指す。また、それ以外の判例についてはその位置づけと要旨を、主として問答により押さえていくこととする。

<科目の内容>

第1回 贈与、売買

『民法判例百選Ⅱ』(46)～(54)を取り上げ、売買と贈与にまつわる諸問題について検討する。

第2回 消費貸借、使用貸借、賃貸借(1)

『民法判例百選Ⅱ』(55)～(64)を取り上げ、貸借型の契約関係にまつわる諸問題を検討する。

第3回 賃貸借(2)、請負、委任

『民法判例百選Ⅱ』(65)～(67)を取り上げる。前回は引き続き賃貸借について検討するとともに、請負および委任にまつわる諸問題について検討する。

第4回 組合・和解、預金、事務管理

『民法判例百選Ⅱ』(68)～(71)を取り上げ、典型契約のうちの寄託、組合、和解と、預金にまつわる諸問題および事務管理について検討する。

第5回 不当利得

『民法判例百選Ⅱ』(72)～(76)を取り上げ、不当利得にまつわる諸問題を検討する。

第6回 不法行為(1)

『民法判例百選Ⅱ』(77)～(81)を取り上げ、一般不法行為の成立要件にまつわる諸問題を検討する

第7回 不法行為(2)

『民法判例百選Ⅱ』(82)～(92)を取り上げ、監督者責任、使用者責任、土地工作物責任、共同不法行為、損害賠償額の範囲と算定、監督義務者の損害賠償責任について検討する。

第8回 不法行為(3)

『民法判例百選Ⅱ』(93)～(100)を取り上げ、過失相殺、慰謝料請求権の相続性、損害賠償請求権の

消滅時効、差止請求、請求権競合について検討する。

第9回 債権法まとめと総則概観

前回までの総まとめを行い、債権法に関する注目すべき新判例等がある場合には、ここで扱う。予習課題は、1週間前までにTKCで指示する。また、次回以降の民法総則に向けて、その大枠を捉える。

第10回 権利能力、行為能力、住所、法人

『民法判例百選Ⅰ』(3)～(10)を取り上げ、権利義務の主体となる「人」にまつわる諸問題について検討する。

第11回 物、法律行為(1)

『民法判例百選Ⅰ』(11)～(18)を取り上げ、「物」、法律行為と法規の関係にまつわる諸問題について検討する。

第12回 法律行為(2)

『民法判例百選Ⅰ』(19)～(25)を取り上げ、意思表示にまつわる諸問題について検討する。

第13回 代理、無効および取消、条件

『民法判例百選Ⅰ』(26)～(38)を取り上げ、代理にまつわる諸問題、無効と取消にまつわる諸問題および故意の条件成就について検討する。

第14回 時効、一般条項

『民法判例百選Ⅰ』(39)～(44)および(1)～(2)を取り上げ、時効および民法の一般条項に関する諸問題について検討する。

第15回 定期試験

<教科書>

中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『別冊ジュリスト No.195民法判例百選Ⅰ 総則・物権 [第6版]』(有斐閣、2009年)

中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『別冊ジュリスト No.196民法判例百選Ⅱ 債権 [第6版]』(有斐閣、2009年)

<参考書>

各自の基本書

奥田昌道、安永正昭、池田真朗編『判例講義 民法Ⅰ総則・物権 [補訂版]』(悠々社、2005年)

奥田昌道、安永正昭、池田真朗編『判例講義 民法Ⅱ債権 [補訂版]』(悠々社、2005年)